

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」Bユニット 1階		
所在地	福島県郡山市御前南2丁目65番地		
自己評価作成日	令和元年11月21日	評価結果市町村受理日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・郡山市での初のグループホームとして17年目になり、お客様の身体レベルにあったケアの提供をご家族様の協力も頂きながら行っている。職員は法人内外の研修に参加し、認知症の理解や介護技術の向上を図り、お客様との日々の生活が楽しく過ごせるケアに努めている。又、自事業所は看取りケアに取り組み、お客様の状態に合わせて受診から往診に切り替えを行い、主治医と共にご家族様の希望に沿った終末期ケアを支援している。

・中庭や外回りの花壇等、季節感を感じて頂ける様に努めており、地域園芸ボランティアの方々と一緒にプランターや施設周りの花壇を行い、楽しんで頂く機会を設けている。

・外部広報はイベントや行事の様子を小・中学校や公民館に掲示したり、防災訓練を運営推進会議時に行い、避難誘導の見学と防災時の協力体制の構築を図っている。又、近隣住民の方々へ広報誌を配布し、自施設での取り組みの様子を紹介している。ブログも毎月更新しており、地域へネットでも情報を発信している。外からも自施設を認識して頂ける様、フェンスに看板を設置して周知を図っている。

・年1回の家族交流会では、ご家族様だけでなく運営推進委員にも参加して頂き、ボランティア等の催しを行い、交流も図れる様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員間で話し合った上で理念の作成を行い、掲示して共有しながら実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にはお客様と一緒に定期的に参加している。また園芸ボランティアの方々に来所して頂き、テラスの花植え等をお客様と共にやる等、地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中学校や公民館に向けて広報誌の作成を行い、掲示して頂いている。また、毎月のブログや郡山市の福ひろばの更新を行い、施設情報の公開を行っている。近くの中学生の職場体験も継続的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回で運営推進会議を開催し、施設での取り組みや行事予定等の報告、避難訓練やインシデント、アクシデントの報告をし、推進委員から率直な意見を頂き、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のサービス相談員が来所され、お客様との交流の中で、意見や要望等が挙がった際は報告して頂いている。また、職員にも気が付いた点等の報告をして下さり、相互で協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議時を中心に勉強会を実施し、職員間で理解を深めてケアに繋げている。日中は施錠せずに自由に行き来できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時を中心に勉強会を実施し、虐待の種類や職員間でも虐待とは何かを確認し理解を深め、日常において虐待のないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時を中心に勉強会を実施し、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けている。また、必要時は関係機関等に相談し、支援に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書や重要事項説明書を用いて施設の方針等の説明を行い、理解、同意を得ている。また、見学や契約の際に不安や疑問点等に対して説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施し、施設への意見や要望等を頂き、結果を集計し職員間に周知した上でケアに繋げている。また、結果は掲示する事でご家族様にも見て頂けるようにしている。更に、玄関に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を頂けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や職員会議時等で、話し合いの場を設け、意見や要望の確認をし、業務に反映している。必要時は、上長に報告、相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理の策定をしており、策定時に職員個々との面談を行い、業務の進捗や成果、想い等の確認をし、アドバイスを行い職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量に合わせた法人内外の研修に参加することで、知識や技術の習得に励むことが出来る機会を設けており、また資格取得に向けた研修にも参加出来るようにし、意欲向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換や交流が図れるように、研修や勉強会に参加する機会を設け、ネットワークづくり等によりサービスの質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時等で本人や家族の要望等を把握し、情報を集約した上でカンファレンスを行い、プランに反映しサービス提供に繋げている。また、安心感を持って頂けるよう、環境づくりや関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プラン作成の際は、家族からの相談記録での悩み事や要望、本人からの想いをくみ取りプランに反映させている。又、面会時に報告を行い関係づくりに努め、要望等が挙がった際は確認し、プラン作成、サービス提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる事、意見を頂戴した上で、カンファレンスを通して職員間で確認し、プラン作成に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器拭き等、出来る事は職員と共に行って頂き、また一緒におやつ作りも行おう等して、ゆったりと会話しながら穏やかに過ごして頂けるように努め、なじみの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況や往診等の報告を面会時や2ヶ月に1回のお便りにて行い、情報の共有に努めている。誕生会や家族交流会への参加もして頂き、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもゆったりと馴染みの方と面会出来るような雰囲気や環境作りに努めている。また、入居前から通っていた詩吟教室にも継続して通えるよう、知人の方々との協力のもとに支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操等を通して、お客様同士が交流出来るよう努めている。また、座席の配置も考慮し、孤立などしないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者やケアマネジャーを中心に、退居後であっても必要があれば相談を受けて対応できる様、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や毎月実施している希クラブを通して、希望や意向の把握に努め、実現に向け職員間で話し合い実施している。又、カンファレンス等にて職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時や家族からの確認にて、生活歴や趣味嗜好について把握し、カルテ記載やカンファレンス時等により職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活表等に記載して日々の状態確認に努め、口頭での申し送りも含めて職員間で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常の様子をアセスメントに記載し、本人や家族からの意見や要望を確認し、カンファレンスにて話し合い、プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を行い、状態把握と共に情報共有を図り、申し送りやカンファレンス等にて検討、見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調変化が見られた際は、家族への連絡や往診、受診等の対応を行っている。健康管理やリハビリ等も希望に沿った対応が出来るように業者との仲介も図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運動会や盆踊り、芋煮会等の地域の行事参加や毎週集会所で行われている、「いきいき100歳体操」等に参加し、地域住民との交流が図れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図りながら、希望に沿って受診や、状態により受診が困難な時は家族や主治医に確認しながら往診に切り替える等の相談も行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回出勤する看護師にお客様の状態を報告する為に連絡表に記載して、申し送りを行っている。また、身体状態の確認も行って頂き、アドバイスも頂戴し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、家族や医療機関と連絡を密に取り、情報共有や関係作りに努め、早期退院に向けての準備も早期に行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時等で、家族や医療機関とも確認しながら、今後のケアの方針について話し合い、本人、家族が安心出来るようにチームで支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、マニュアルを作成し、職員会議時を中心に勉強会を行い、対応出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練やデイサービスとの合同の防災訓練を通して、災害時の対応について確認している。また、運営推進会議時にも防災訓練を行い、取り組みについての確認もしている。消防署員立ち合いでの訓練も行い、消火設備の使用の確認や地域との協力体制構築においては、町内会にお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時のノックや入浴時や排泄時等で扉を閉める事の徹底等、プライバシーの配慮を行っている。また、コミュニケーション時には尊重した声掛けを行い、必要時は職員が仲介している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの選択や嗜好に沿ったサービスの提供に努め、自己決定の場設け、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンやペースに合わせて、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やお誕生会等に合う衣服の選択の支援や訪問理美容の利用により、整容面での支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	会話をしながら和やかに食事を楽しんで頂けるように努めている。また、食事の準備や後片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態での提供や水分の提供、状態に応じて補食提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、状態に合わせて自身で行って頂いたり、介助にて行っている。また、口腔内ウェットティッシュの使用や洗浄液も使用しケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンのチェックや時間を確認しながらトイレ誘導を行っている。また、状態に合わせて、パットやオムツの検討も行い、清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や排泄時に腹部マッサージを行う等し、牛乳や乳製品も提供、必要時は下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分や状態、希望の時間に合わせて入浴の提供を行い、入浴剤やしょうぶ湯等も取り入れて楽しく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状態に合わせて休息の時間を設け、居室の温度や湿度等の調整、使い慣れた布団を使用して安心して眠って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診カルテや処方箋等により服薬内容の確認を行い、変更時は申し送りに記載し、職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たたみ等の生活レク等により役割を持って頂き、趣味の塗り絵等を継続して行ってもらえるようにし、楽しみや生活にハリを持って過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスや施設の周囲の散歩に行く等、希望に沿って支援している。また、外出レクリエーションにより、お花見や紅葉狩りに出掛けて、気分転換が図れるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居されている方で、家族も含めてお金の所持を希望される方は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方から電話があった際は、取り次ぎ支援している。手紙は、返事の希望があれば投函も含めて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画や装飾を行い、温度や湿度の調整や毎日の清掃により清潔保持、環境整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配慮を行い、利用者同士が交流を図れるように配慮している。また、ソファや和室もあり、ゆったりと思い思いに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	使用していた家具や家族との思い出の品等を居室内に飾って頂き、落ち着いて過ごして頂ける居室の整備に努めている。掃除や衣服の整理を職員が行い、環境整備にも努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事の為に、場所案内のプレート掲示や状態に合わせた物を使用し、安全に過ごして頂けるように工夫している。		